

平成29年度実践的安全教育総合支援事業成果報告書

学校名：岩手県立福岡高等学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

昨年度に引き続き、野田村社会福祉協議会の協力のもと、表札作りとお茶会などを実施した。野田村側の要望により、10月14日（土）の野田村ボランティア祭に参加することになり、プログラムの中にステージ発表として、音楽部の演目を加えていただいた。土曜日ということもあり、村民の方も多数来場され楽しんでいる様子だった。10時から13時の限られた時間の中で、表札作りやお茶会、子どもの輪投げ大会の補助、音楽部による合唱と、生徒が積極的に関わり活動していた。

後片付けの後、野田村社会福祉協議会の大平妙子さんから、本校生徒が立っている、野田村役場広場前まで津波が押し寄せ瓦礫や泥で埋め尽くされ大変だった、と説明をいただいた。多くの方々よる復興支援の活動があったおかげで、ボランティア祭を開催することができていると、震災の悲惨さを感じることができる貴重なお話をいただいた。参加生徒は76名（全日制74名、定時制2名）であった。

II 取組の概要

（1）表札作り

表札作りについては、事前に多い苗字をリサーチし、書道部と美術部が注文を受け作成した。3時間の限られた時間の中で美術部のデザインが30個、書道部が30個と注文が多く、時間内にできない表札もあった。後日、本校から依頼主宛に直接郵送した。

美術部の表札は、苗字以外にビーズなどで飾り付けをし、木のぬくもりを感じる作品であった。また、書道部の作品も素晴らしく、市販の表札と変わらない完成度であった。実際の制作中には、地元の方との会話をする機会もあり、手作りの表札が仮設住宅にあるだけで和むという声も聞かれた。

（2）お茶会

一つのテントを借り、お茶席を設け、子どもから大人までご来場された方にお茶を提供した。開始1時間は子ども向けのお茶会体験時間を設定し、お菓子を一

緒に楽しんでいただいた。来ていただいた方々への感謝の気持ちが伝わるような、茶道部の振る舞いも含め、素晴らしいお茶会となり、ご来場された方々から、「美味しい」と言っていただく場面もあった。

（3）ステージ発表

10時25分から30分間、音楽部が合唱を披露した。割り当てられた時間を最大限に生かし、ボランティア祭に花を添えた。曲目も、高齢者の方々も考慮に入れ、昔ながらの童謡から、地方の民謡、そしてアップテンポな曲調など、バラエティーに富む曲目で、聴く人が心温かく、また元気がでるような発表であった。

III 取組の成果と課題

1 成果

お茶会を通して、ひとときの憩いの場を提供できたこと、また、手作りの表札をご来場された方々に提供し喜んでいただけたことから、今回の目的は達成できたと感じている。日頃の文化部の活動をそれぞれの役割を意識して形にできたのは、復興支援の一助になったと考える。

2 課題

被災地が未だに復興途上にあり、震災ガイドなどを通して復興の様子を直に耳にできたことは有意義であった。来年度も震災学習の場を盛り込み、生徒一人ひとりの震災に対する意識を高めたい。

